

創業

大正2年
(1913)

大正2年

深田家当主良矩が金融業を開始。同時期、住吉町で『蔦茂旅館』を開業。

昭和20年

名古屋大空襲で全焼。

昭和22年

良矩の子、正矩が住吉町の同じ場所に、黒塀の数寄屋造り本館を新築。

昭和32年

料亭としての新ビルが竣工。屋上にゴルフ練習場を設け、話題となる。



料亭蔦茂創業100周年特別昼会席「住吉」5400円の一例。



100年の老舗を守る3代目主人・深田正雄さんと、それを支える女将の旬子さん。



庭園には江戸時代からの井戸があり、地下水は生花、料理の下ごしらえ、鯉の池に利用。



上/屋上ゴルフ練習場を設置していたビル。下/写真の初代の祖父から教えられた伝統を今も守る。

◆地下鉄東山線・名城線栄駅8番出口徒歩10分。11時30分～13時30分LO・17時～19時30分LO、無休。名古屋市中区栄3-9-27
☎052-241-3666 MAP P50

時代に合わせた
知恵と工夫で老舗を守る

「祖父・良矩よしのりの代に伊勢町で金融業を営み始め、それと同時期に、住吉町でお客様の接遇を目的とした『蔦茂旅館』を開業。そこから数えて『料亭蔦茂』は平成27年に創業102年を迎えました」。そう話すのは3代目主人の深田正雄さん。住吉町はかつて料亭が立ち並ぶ町だったというが、今では往時を伝える貴重な一軒となってしまった。創業当初は順調に営業を続けてきたが、昭和20年(1945)3月、名古屋大空襲で全焼。だが、翌々年4月には2代目の正矩さんが同じ場所に黒塀の数寄屋造り本館を新築し、『料理旅館蔦茂』として再出発を果たす。やがて料亭の役割が多くなり、当時の売上げの3分の1は芸者の花代というほど、旦那衆たちに支えられてきた。

しかし、時代の流れとともに男性客中心の料亭文化は減少。そこで、3代目女将・旬子さんのアイデアが加わる。平成22年6月からは、低価格帯の昼食プランを実施。『ジエイアール名古屋タカシマヤ』地下に総菜・弁当店もオープンさせ、女性に向けて料亭の敷居を低くした。100年という歴史の中で何度も姿を変えてきた『料亭蔦茂』。これからも変化していくのだろう。それが老舗を守る知恵と工夫なのだから。